

科目名	表現1b (幼稚園教諭二種必修)		
授業形態	演習	学年	2
開講時期	2022年度 前期	単位数	1
担当教員	葉山 亮三、渡部 琢也、河原田 潤、渡部 智也		
内容および計画	<p>領域表現に関する科目について 幼稚園教育要領、保育所保育指針の定める5領域の中に位置するのが「表現」という領域である。「表現は」のねらいは以下の3点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。</li> <li>(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。</li> <li>(3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</li> </ol> <p>これらを子どもたちに育むことができるよう、それぞれ科目が設置されている。また表現は音楽による表現、身体による表現、造形による表現に細分化されるが、これらが連動することで育まれる領域である。本学のカリキュラムには表現と名の付く科目が多く、煩雑である。それぞれの科目の立ち位置を整理し、理解したうえでそれぞれの科目を履修し学ぶことを求めるものとする。</p> <p>領域に関する専門的事項に属する科目「幼児と表現Ia」「幼児と表現Ib」 「幼児と表現Ia」は初めに学ぶ科目になり、子どもたちの表現とは何か、その特性、発達段階を踏まえた基礎的知識を学ぶものである。音楽表現、身体表現、造形表現を各4回受講し学んだ後、グループワークでより学び深めるものである。「幼児と表現Ib」は「幼児と表現Ia」では学びきれなかった音楽表現、身体表現、造形表現について基礎的な学びを深め、グループワークでシェアリングする。これらの2科目は領域「表現」のベース科目になる。</p> <p>保育内容の指導法に属する科目「表現Ia」「表現Ib」 「表現Ia」「表現Ib」は保育内容の指導力を高めるための科目である。本学ではこの資質を身に着けるため、主に二つの活動を主軸としている。 一つが教材研究である。「幼児と表現Ia」「幼児と表現Ib」で学んだことを生かし教材研究を進め、それを指導法に転換する。指導計画案を作成し、模擬保育を行い、改善を図る。 もう一つは劇表現の実践である。劇表現は音楽表現、身体表現、造形表現が連動することで完成し、各表現のつながりを体験的に学ぶことができる。またグループ活動を主とし、学生間でブラッシュアップを図ることでアクティブラーニングの学びを得る。 どちらもPDCAサイクルを繰り返すことで指導力の向上を図る。</p> <p>領域「表現」の学びを深める選択科目「音楽表現I」「音楽表現II」「音楽表現III」「身体表現」「造形表現」 領域「表現」の学びを深めるため、選択科目が設定されている。 「音楽表現I」「音楽表現II」はピアノの演奏技術を身に着ける演習を主とし、保育者に必要な演奏技術を身に着ける。 「音楽表現III」「身体表現」「造形表現」は「幼児と表現Ia」「幼児と表現Ib」の発展として設定され、基礎的な知識演習を押し広げ、より幅の広い表現の知識、方法を学ぶ。 本学は保育者を志す学生には「音楽表現I」「音楽表現II」の履修を推奨しており、「音楽表現III」「身体表現」「造形表現」からも2単位履修することを推奨している。(社会福祉士受験資格に関する科目を多く履修するものを除く) より発展的な自由科目「こども実践演習Ia」「こども実践演習Ib」「こども実践演習IIa」「こども実践演習IIb」 これらの表現に関する科目をさらに深めるため、本学は自由科目を開講している。 「こども実践演習Ia」「こども実践演習Ib」は直接子どもと関わるイベントを企画・実践し、これまで培った表現に関する学びを実際に運用することができる。 「こども実践演習IIa」「こども実践演習IIb」ではピアノの演奏技術を学び、特に苦手意識を持つ学生が学生生活の2年間ピアノを学び続けられるように設定されている。</p> <p>「表現Ib」授業の概要 表現Iaで学んだことを基にして、以下の内容についてさらに学びを深める。基礎的な表現の知識と技術を集団を通して活用し、それぞれの技術を統合し、オペレッタを作り上げていく過程における子どもへの指導について学ぶ。身体、音楽、造形表現の教材研究を行い、領域表現の指導力、実践力を高める。教材にはICT機器を含み、子どもたちが主体となって扱うものを想定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体表現においては、劇を用いて感情を表現する、また音楽を用いた運動から子どもの自由で創造的表現を促進するための指導について学ぶ。</li> <li>・音楽表現においては、合唱や合奏を通して他者との関わりの中から子どもが自己を表現していくことを学ぶとともに、他者を尊重し協働していくことの楽しさを学ぶための指導について考察する。</li> <li>・造形表現においては、子どもの発達と造形表現に関する基礎的な知識と技術を踏まえ、主に工作等の造形活動を通して子どもが豊かな表現技術を身につけられる指導法について学ぶ。</li> </ul>		

	教材研究、劇表現、どちらも指導計画案を作成 PDCA サイクルでブラッシュアップを図り、保育内容の指導力を高める。			
1	ガイダンス、領域表現の意義（担当：河原田潤、渡部琢也、葉山亮三）			
2	劇表現①（演目の検討）（担当：河原田潤、渡部琢也、葉山亮三）			
3	劇表現②（配役について）（担当：河原田潤、渡部琢也、葉山亮三）			
4	教材研究①（領域表現の教材とは）（担当：河原田潤、渡部琢也、葉山亮三）			
5	教材研究②（教材の作成）（担当：河原田潤、渡部琢也、葉山亮三）			
6	教材作成③（指導計画案の立案）（担当：河原田潤、渡部琢也、葉山亮三）			
7	教材研究④（指導計画案の作成）（担当：河原田潤、渡部琢也、葉山亮三）			
8	劇表現③（シナリオの検討）（担当：河原田潤、渡部琢也、葉山亮三）			
9	劇表現④（アクトリズム・オペレッタの特性）（担当：河原田潤、渡部琢也、葉山亮三）			
10	劇表現⑤（音による表現）（担当：河原田潤、渡部琢也、葉山亮三）			
11	劇表現⑥（身体による表現）（担当：河原田潤、渡部琢也、葉山亮三）			
12	劇表現⑦（造形による表現）（担当：河原田潤、渡部琢也、葉山亮三）			
13	総合表現としての劇表現（担当：河原田潤、渡部琢也、葉山亮三）			
14	模擬保育①（グループ発表）（担当：河原田潤、渡部琢也、葉山亮三、渡部智也）			
15	模擬保育②（振り返り、まとめ）（担当：河原田潤、渡部琢也、葉山亮三、渡部智也）			
<b>教科書</b>				
	<b>タイトル</b>	<b>著者名</b>	<b>出版社</b>	<b>ISBN</b>
	幼稚園教育要領<平成 29 年告示>		文部科学省	
	保育所保育指針<平成 29 年告示>		厚生労働省	
	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説		内閣府、厚生労働省、文部科学省	
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『幼稚園教育要領解説』文部科学省</li> <li>・『保育所保育指針解説書』厚生労働省</li> <li>・その他適宜紹介する</li> </ul>			
<b>成績評価</b>				
	<b>評価方法</b>			<b>割合(%)</b>
	教材研究・指導計画案等			40
	劇表現・指導計画案等			40
	リアクションペーパー・制作物等			20
<b>学習到達目標</b>	授業の到達目標及びテーマ 表現 I a を踏まえて、感じたことや考えたことを自分なりに表現することに加えて、子どもが他者との関わりの中から自己を表現すること、他者の存在を尊重することを学ぶ指導法について学ぶ。			
<b>先修条件</b>				
<b>実務経験</b>	実務経験あり：職業としての音楽表現活動、造形表現活動、身体表現活動の実務経験			

